

一般質問

本間敏行

〔ふらの未来の会〕

墓地の考え方は

問 近年、関心が高まっているのが、大勢の遺骨を1ヵ所に埋葬する合同墓である。少子高齢化などで、お墓の維持に悩む人々に、新たな形式として利用されている。現在、道内の設置状況は、市では、札幌市・小樽市・北見市・網走市の4市である。今後、市町で10カ所以上が検討中のことであるが、本市の合同墓設置の考えは。

答 本市の考え方については、近年、少子高齢化や核家族化、地方から都市への人口移動が進み、また、世代の移り変わりにより墓及び納骨に対する考え方が多様化しており、将来的には合同墓を検討する時期が来るかもしれないが、本市においては、現在、市民が墓地を求めるニーズに応えるため、平成26年度から新たな墓地造成工事に着手しているところであり、合同墓設置については、現段階では考



富良野市防災ガイドマップ

防災対策は

問 自主防災組織の組織化の進捗状況と課題は。

答 本市の自主防災組織は、現在37団体が組織されている。連合会長、町内会長を対象に防災アンケートを実施しているが、地域の組織化の必要性を感じながらも組織化に至っていないとの回答も多くみられ、今後も引き続き組織化に向け、未組織地域への働きかけ、支援に努めていく。

△その他質問△
・使用者の不明な墓の取扱い
・自主防災組織の情報共有
・防災ガイドマップの有効活用

ていない。

渋谷正文

〔ふらの未来の会〕

農業における担い手育成は

問 担い手について、富良野地域全体が共通の認識をするには、まずは数値としての見える化が必要と考える。農業経営者数はいつの時点でどれだけの数を想定しているのか。

答 第2次富良野市農業及び農村基本計画において、過去の推移は示しているが、将来の見通しについては記載していない。国

の研究機関である「農業・食品産業技術総合研究機構」が人農地プランの参考資料として将来予測を公表しているが、実態とのかい離が大きく、将来予測をすることは困難である。ただし、様々な対策を講ずることにより、可能な限り減少させないことが重要と考える。

問 数値化は、行政としてできないのか。

答 推計を立てて農家の自立を促すことは、現在の国の農業の進め方を含め、大変厳しいもの

ていない。



農業担い手育成センタートレーニング農場

未利用財産の利活用は

問 旧北の峰ハイツの利活用は、民間活力の導入も検討する。

問 女性が農業経営者として活躍するための支援体制は。

答 これまで担い手を男女で分けて考えることはしていない。激動する情勢の中でも、優良な農業生産を継続する能力を有する者を経営者像としている。今後、女性の経営者或いは女性の農家後継者を対象として聞き取り調査等を行いたいと考える。